

立木公売の公告 第2回

【資格付き一般競争入札】

1. 入札及び開札の日時 令和5年7月27日（木） 13時15分受付開始
13時30分締切即時開札
2. 入札及び開札の場所 下北森林管理署 入札場

3. 現地案内

入札番号 1号	令和5年7月20日（木） 9：00 田名部森林事務所集合
入札番号 2～4号	令和5年7月18日（火） 9：00 脇野沢森林事務所集合
入札番号 5～7号	令和5年7月24日（月） 9：00 佐井森林事務所集合
備考	本入札物件の案内を希望する方は、案内日前日の 15：00までにご連絡をお願いします。 業務グループ経営担当 TEL.050-3160-5885

4. 公売物件

- (1) 物件所在地、種類、樹種、数量、売払番号、搬出期間は、別紙公売物件明細書及び公売物件一覧表のとおりです。
- (2) 各物件の林齢は内部記録に基づき参考として表示したものであり、実際の林齢とは必ずしも合致しない場合もありますのでご承知おきください。
- (3) 引渡期間は、代金納入の日又は延納担保提供の日から起算して15日以内とします。

5. 郵便入札

- (1) 郵便入札によるときは、封筒を二重に使用し、内封筒には入札書、外封筒には資格付一般競争参加資格確認通知書の写し又は、最寄りの森林管理局長発行の入札参加資格証明書を入れ、書留郵便又は配達証明郵便により7月26日の17時00分までに必着とします。指定日時までに到着しない場合は無効となります。
- (2) 送付先は次のとおり
郵便番号 035-0041
住 所 青森県むつ市金曲一丁目4-6
宛 名 下北森林管理署長
入札書在中（朱書きで記載）
- (3) 郵便入札の場合は、不落札の場合に直ちに行われる再度入札に参加できません。

6. 契約の締結期限 令和5年8月3日（木）までとします。

7. 代金の納入期限 契約締結の日から起算して20日以内とします。

8. 代金の延納

- (1) 延納期間は、法令の定める範囲とします。
- (2) 延納利息は法令の定めにより1.00%とします。
- (3) 延納担保の提供期間は、契約締結の日から起算して20日以内とします。

9. 特約条項及び特記事項

- (1) 全物件に該当するものは別紙1「特記事項」のとおり。
- (2) 個別物件に該当するものは公売物件明細書のとおり。
- (3) 森林作業道作設にあたっては、別紙2「森林作業道特記仕様書」等に基づき作設願います。（「森林作業道作設指針」については、「東北森林管理局ホームページ：ホーム>公売・入札情報>林産物の販売>【立木販売買受者の皆様へ】立木販売箇所における森林作業道の作設について」（アドレス：<http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/apply/publicsale/wood/rinsanbutu/R30401ryuhan.html>）に掲載しています。）
- (4) 本入札の物件には、分収造林契約の候補地が含まれます。落札者が分収造林契約を希望する場合、契約相手方の要件（分収造林地の造林、保育及び保護義務の履行が確実であること等）を満たせば、分収造林契約を締結することが可能です。詳細については、下北森林管理署 経営担当にお問い合わせ下さい。
なお、分収造林契約の締結は、本入札の参加条件ではありません。

10. 入札条件等

この入札に参加する者は、「国有林野事業における林産物の売買に係る契約書及び契約約款」並びに入札条件等を熟覧のうえ入札願います。
詳細は、東北森林管理局又は当署のホームページに掲載されているほか、下記の担当へ問い合わせ願います。

青森県むつ市金曲一丁目4-6

下北森林管理署 業務グループ 経営担当

問い合わせ先 TEL 050-3160-5885

令和5年7月11日

分任契約担当官

下北森林管理署長 小笠原 孝

特記事項

1. 伐採した立木の残材、末木枝条等を沢縁、土場敷並びに林道沿線に散乱放置することなく、搬出期間内に跡地の整理と搬出路等の水切りを確実に実施すること。
2. 搬出路の作設及び集材等にあたっては、森林作業道特記仕様書（立木販売）に基づき作設し、河川への汚濁水等の流出のないよう措置を講じること。
3. 搬出路及び土場敷の設定が伐区外へ及ぶときは、その区域が保安林となっている箇所があることから、保安林に関する手続きを作業着手3週間以上前までに行うこと。
4. 搬出等にあたって、林道・境界標等を損壊した場合は買受者の責において修繕し、採石等の敷き込みも買受者で行うこと。
5. 買受者は、労働安全確保体制を確立し、現場従業員を指導するとともに、緊急連絡体制図を休憩所に明示すること。
6. 林道等の除雪は一切行いません。
7. 伐倒・搬出の際に隣接している小班の木を損傷しないよう措置を講じること。
8. 埋蔵文化財を発見した場合は、その原状を変更することなく、速やかにその旨を森林管理署長へ連絡し、森林管理署長の指示に従うものとする。
9. 林業における労働災害防止の観点から立木販売契約情報（売買契約者名・事業着手前に提出された入林届）を労働基準監督署へ情報提供します。
また、提出された情報に基づき、労働基準監督署による現場点検や安全指導が行われる場合があります。

入札条件

1. 入札の参加資格

この入札は、最寄りの森林管理局長から資格付一般競争資格確認通知書の交付を受けた者でなければ入札に参加できません。

2. 参加資格の確認

- (1) 入札参加者は、資格付一般競争資格確認通知書又は入札参加資格証明書を持参の上、入札時に受付に提出して確認を受けてください。
- (2) 入札参加者が代理人のときは、委任状を提示してください。
- (3) 入札参加者（代理人含む。）は、本人確認ができる身分証明書を持参し、受付に提示して本人確認を受けてください。

3. 暴力団排除に関する誓約事項

- (1) 入札参加者は、暴力団排除に関する誓約事項（別紙）について、入札書の提出をもってこれに同意したものとします。
- (2) 前述の暴力団排除に関する誓約事項について、虚偽又はこれに反する行為が認められた者の入札については無効とします。

4. 公告物件の熟覧

公告物件は、物件明細書、現場を熟覧の上、入札してください。

5. 入札方法

- (1) 入札は、物件番号毎に総額入札で行います。
- (2) 入札書は、所定の用紙に必要事項を記載し、入札締切時刻前に入札箱へ投函してください。
- (3) 入札箱へ投函した後の入札書の変更、取り消しはできません。
また、開札前に入札書を無効にしたい旨の申し出があっても受理しません。

6. 落札者の決定

- (1) 開札は、指定した場所及び日時に入札者の前で行い、予定価格以上の最高入札者を落札者とします。
ただし、同金額の最高入札者が2者以上のときは、直ちにくじで落札者を決めます。
- (2) 落札宣言後は、錯誤等を理由に入札無効の申し出があっても受理しません。また、どのような理由があっても落札を無効とすることはできません。

7. 入札保証金

入札保証金は免除します。

ただし、落札者が契約を締結しないときは、入札金額の100分の5に相当する金額を違約金として徴収します。

また、違約金を指定する日までに納入しないときは、違約金を納入するまでの間、競争参加資格を停止、あるいは将来この資格を付与しないことがあります。

8. 契約保証金

契約保証金は免除します。

ただし、買受人が契約を履行せずに契約を解除した場合は、契約代金の100分の10に相当する金額を違約金として徴収します。

9. 入札の無効

(1) 競争参加不適合者が入札した場合

(2) 入札参加資格のない者又は入札参加資格者として確認できない者が入札した場合

(3) 汚染、損傷又は記入漏れ等により、売払番号、入札金額、入札者名を確認できない場合

(4) 競争参加資格者本人の署名、又は委任者の押印がない場合

10. 契約の成立

売買契約は、契約書に分任契約担当官と買受者の双方が記名押印したときに成立します。

11. 入札書用紙

入札書用紙は、最寄りの森林管理署又は当日入札場の受付で配布しているものを使用してください。

12. 入札金額は、消費税を除いた金額で行ってください。

なお、消費税を加算した金額で入札した場合でも消費税抜きの金額と見なし、訂正、取り消しは認めません。

13. 落札及び契約書の金額は、入札書に記載された金額に消費税10%を加算した額となります。

14. 契約締結以降に係る違約金、遅延金等は全て消費税を加算したものとなります。

森林作業道及び集材路・土場作設特記仕様書（立木販売）

本特記仕様書は、「森林作業道作設指針」（平成22年11月17日付け22林整整第656号林野庁長官通知）及び「主伐時における伐採・搬出指針」（令和3年3月16日付け2林整整第1157号林野庁長官通知）に基づき、東北森林管理局管内の地形・地質、土質や気象条件及び路網作設実績等を踏まえ定めたものである。

また、本事業で作設する路網は、間伐等による木材の集材・搬出、主伐後の再造林等の森林整備に継続的に用いられる森林作業道とし、立木の伐採、搬出等のために林業機械等が一時的に走行することを目的として作設される仮施設を集材路とする。併せて、木材等を一時的に集積し、積み込み作業等を行う場所を土場とし、作設に当たっては本特記仕様書による。

なお、本特記仕様書に定めのないものについては、森林作業道作設指針及び主伐時における伐採・搬出指針によることを基本とする。

第1 森林作業道

1 路網計画

- ① 実際の森林作業道作設計画に当たっては、森林作業道作設指針等に基づき現地踏査を行い、現地に簡易な木杭等で計画線形を標示するとともに、この計画線形を路線計画図（1/5000）にかん入し、森林官等に提出する。
- ② 計画線形確定に当たっては、作業効率を十分に考慮し、土質の安定している安全な箇所を通過するよう計画する。
特に、主伐時に森林作業道を作設する場合は、造林・保育等の森林施業による次世代の森林づくりのため、継続的に利用できるように考慮しなければならない。
- ③ 作業開始前に線形、構造物の設置及び支障木の範囲について、森林官等の確認を受ける。
- ④ 森林作業道の計画に変更が生じたときは、その変更について森林官等に申請し、確認を受ける。

2 森林作業道作設の基本的工法

- ① 路体は繰り返しの使用に耐えるよう、締固めを十分に行った堅固な土構造による路体とすることを基本とする。
なお、構造物は地形・地質等の条件から必要な場合には、現地条件に応じた規格・構造の施設を設置する。
- ② 地形に沿った屈曲線形による切土量の抑制、切土盛土の均衡、雨水処理に有効な波形勾配による分散排水を基本に作設する。
- ③ のり面保護や洗越し、排水溝等の作設には、作業地から発生する伐根、丸太、枝条、転石の活用に努める。

- ④ 支障木の伐開幅は、開設区間の箇所ごとに斜面の方向、風衝等を考慮し、必要最小限となるよう計画する。

3 森林作業道の施工規格

(1) 幅員、最小曲線半径及び縦断勾配

- ① 幅員は3mまでとする。ただし、林業機械等を用いた作業の安全性・作業性の確保の観点から、当該作業を行う区間に限って、0.5m程度以内の余裕幅を付加することができる。
- ② 最小曲線半径は6.0m程度とし、使用する林業機械の規格、積載する木材の長さを勘案して決定する。
- ③ 縦断勾配は概ね18% (10°) 程度以下とし、土地の制約等から必要な場合は、短区間に限り25% (14°) 程度とする。なお、勾配は雨水の分散排水を考慮した波形勾配とする。

(2) 切土

- ① 切土工では、盛土との均衡を念頭に切土量を極力少なくするよう努め、切土のり面は直切りを基本とする。また、切土のり面の高さは1.5m程度以内を基本とする。
- ② なお、地質や土質等の条件に応じて、切土高が高くなる場合ののり面勾配は、よく締まった崩れにくい土砂の場合は6分 (59°)、風化の進度又は節理の発達の違い岩石の場合は3分 (73°、岩石) とし、地質や土質等の条件に応じて切土のり面勾配を調整する。

(3) 盛土

- ① 盛土については、強固な路体を作設するため、盛土は複数層に区分し、各層ごとに30cm程度の厚さとなるようバケット背面及び覆帯で十分締固めながら積み上げる。

なお、盛土のり面が高くなる場合や緊結度の低い土砂の場合は、丸太組工等により補強すること。

- ② のり面勾配は、1割 (45°) 程度を基本とする。
- ③ 作設過程で発生する伐根やはぎ取り表土は、のり面保護工に活用し、転石は路体に埋設して路体強化に活用する。

なお、伐根を丸ごと路体に埋設することは、締固めが難しくなるため避ける。

また、土質、根株の大きさ、集材方法、山腹傾斜から、のり面保護工への活用に向かない場合は、安定した状態にして自然還元利用等を図ること。

- ④ 盛土量の調整は、山側から谷側への横方向だけでなく掘削箇所前後の縦方向も加えて行う。

(4) 切土量と盛土量の均衡に留意し、捨て土を発生させないように努める。

4 施工管理

事業終了時には、洗堀を防ぐための水切り等を登坂部分等に講ずるものとする。

5 望ましい路網整備の考え方

地形・傾斜、作業システムに対応する別紙「地形傾斜・作業システムに対応する路網整備水準の目安」を踏まえ、効率化を最大限に発揮するために必要な路網を整備する。

第2 集材路・土場

1 伐採及び搬出に係るチェックリスト等の提出及び確認

- ① 集材路・土場を作設する必要があるときは、主伐時における伐採・搬出指針に基づき現地踏査を行い、現地に簡易な木杭等で計画線形を標示するとともに、計画線形を明示した図面（1/5000）を、森林官等に提出する。なお、森林作業道と集材路・土場を作設する場合は、森林作業道の路線計画図に集材路・土場をかん入する。
- ② 計画線形を明示した図面の提出に併せて、伐採及び搬出に係るチェックリストを森林官等に提出する。
- ③ 作業開始前に線形、構造物の設置及び支障木の範囲、伐採及び搬出に係るチェックリストについて、森林官等の確認を受ける。
- ④ 集材路・土場の計画に変更が生じたときは、その変更について森林官等に申請し、確認を受ける。

2 伐採の方法及び区域の設定

- ① 林地の崩壊の危険のある箇所等については、林地の保全及び生物多様性の保全に支障が生じないように、伐採の適否等について、森林官等と調整する。
- ② 伐採を行う際には、対象となる立木の生育する土地の境界を越えて伐採（誤伐）しないように、あらかじめ伐採する区域の確認を行う。区域外の伐採を必要とする場合は事前に森林官等と協議する。
- ③ 林地の保全及び生物多様性の保全のため、あらかじめ示された保護樹帯や保残木を損傷させない。なお、これらの箇所に架線や集材路を通過させなければならない場合は、その影響範囲が最小限となるよう努める。

3 集材路・土場の計画及び施工

(1) 林地保全に配慮した集材路・土場の配置・作設

- ① 図面及び現地踏査により、伐採する区域の地形、地質、土質、水の流れ及び湧水、土砂の崩落、地割れの有無等を十分に確認する。その上で、集材路・土場の作設によって土砂の流出・崩壊が発生しないよう、集材方法及び使用機械を選定し、必要最小限の集材路・土場の配置を計画する。

- ② 伐採・搬出に当たっては、地形等の条件に応じて路網と架線を適切に組み合わせる。特に、急傾斜地その他の地形、地質、土質等の条件が悪く土砂の流出又は林地の崩壊を引き起こすおそれがあり、林地の更新又は土地の保全に支障を生じる場所において伐採・搬出する場合には、地表を極力損傷しないよう、集材路の作設を避け、架線集材によることとする。
 - ③ やむを得ず集材路又は架線集材のための土場の作設が必要な場合には、法面を丸太組みで支える等の十分な対策を講じる。
 - ④ 集材路・土場の作設開始後も土質や水の流れなど伐採現場の状態に注意を払い、集材路・土場の配置がより林地の保全に配慮したものとなるように、必要に応じて当該配置に係る計画の変更を行う。
 - ⑤ 集材路の線形は、ヘアピンカーブ等の曲線部を除き、極力等高線に合わせる。
 - ⑥ ヘアピンカーブを設置する必要がある場合は、尾根部その他の地盤の安定した箇所に設置する。
 - ⑦ 集材路・土場の作設により露出した土壌が溪流へ流入することを防ぐため、一定幅の林地がろ過帯の役割を果たすよう、集材路・土場は溪流から距離をおいて配置する。
 - ⑧ 集材路は、沢筋を横断する箇所ができるだけ少なくなるように配置する。
 - ⑨ 伐採現場の土質が溪流の長期の濁りを引き起こす粘性土である場合は、集材路・土場の作設を可能な限り避ける。やむを得ず作設を行う必要があるときは、土砂が溪流に流出しないよう必要に応じて編柵工等を設置する。
 - ⑩ 伐採する区域内のみで集材路の適切な線形、配置、縦断勾配等を確保することが困難な場合には、当該区域の隣接地を経由することも検討する。このとき、集材路の作設に当たっては、森林官等と協議等を行う。
- (2) 人家、道路、取水口周辺等での配慮
- ① 集材路・土場の作設時には、土砂、転石、伐倒木等が流出又は落下しないよう、必要に応じて保全対象（土砂、転石、伐倒木等の流出又は落下による被害を防止する対象となるものをいう。以下同じ。）の上方に丸太柵工等を設置する。特に、人家、道路、鉄道その他の重要な保全対象が下方にある場合は、その直上では集材路・土場を作設しない。
 - ② 水道の取水口に濁水が流入しないよう、その周辺では集材路・土場の作設を避ける。
- (3) 生物多様性と景観への配慮
- ① 生物多様性の保全のため、希少な野生生物の生息・生育情報を知った場合には、必要に応じて線形及び作業の時期の変更等の対策を講じる。
 - ② 集材路・土場の作設に当たっては、集落、道路等からの景観に配慮し、集材路・土場の密度、配置及び作設方法を調整する。

(4) 切土・盛土

- ① 切土・盛土の量を抑えるために、集材路の幅及び土場の広さは作業の安全を確保できる必要最小限のものとする。
- ② 切土高を極力低く抑えるとともに、盛土を行う場合には、しっかりと締め固め、補強が必要な場合には、丸太組み工法等を活用して盛土を安定化させる。
- ③ 残土が発生した場合には、残土が溪流に流出しないよう溪流沿いを避け、地盤の安定した箇所に小規模に分散して置く。また、流出のおそれがある場合は、丸太組み工法等を活用して対策を講じる。

(5) 路面の保護と排水の処理

- ① 雨水が集中して路面の長い区間を流下し、又は滞水すると、路面の洗掘及び崩壊の原因となるため、地形を利用して上り坂と下り坂を切り替えるなどの路面の保護のための対策を講じる。
- ② 路面の排水は、可能な限り尾根部、常時水の流れている谷等の侵食されにくい箇所でこまめに行う。また、崩れやすい盛土部分の崩壊等を避けるため、路面から谷側斜面への排水を促しつつ、横断溝を設け、流末処理も行うとともに盛土箇所の手前で排水するなどの対策を講じる。

(6) 溪流横断箇所の処理

- ① 溪流横断箇所においては、流水が道路等に溢れ出ないように施工し、その維持管理を十分に行う。また、暗渠を用いる場合には、詰まりが生じないように十分な大きさのものを設置することとし、暗渠の呑口の土砂だめの容量を十分確保する。なお、洗い越しとする場合は、横断箇所で集材路の路面を一段下げる。
- ② 洗い越しは、越流水が生じても水の濁りが発生しにくくなるよう大きめの石材を路面に設置するなどにより安定させ、流出のおそれがある場合は、必要に応じて撤去する。

4 伐採・造材・集運材における作業実行上の配慮

- ① 集材路・土場は、作業が終了して次の作業まで一定期間使用しない場合には、流路化による土砂の流出防止や、植生回復に配慮し、路面に枝条を敷設する等の措置を講じる。
- ② 集材路・土場の路面のわだち掘れ、泥濘化、流路化を避けるため、降雨等により路盤が多量の水分を帯びている状態では通行しない。通行する場合には、丸太等の敷設などにより、路面のわだち掘れ等を防止する。
- ③ 伐採現場が人家、道路、鉄道その他の重要な保全対象の上方に位置する場合には、伐倒木、丸太、枝条・残材、転石等の落下防止に最大限の注意を払う。
- ④ 伐採後の植栽作業を想定して伐採作業時から伐採後の地拵え等の作業が効率的に行えるよう枝条等を整理するとともに、造林事業者が決まっている場合は、造林事業者と現場の後処理等の調整を図る。

- ⑤ 枝条等が雨水により溪流に流出することがないように対策を講じ、沢に近い場所への集積は避ける。
- ⑥ 天然更新を予定している区域では、枝条等が萌芽更新、下種更新等の妨げとならないように留意し、枝条等を山積みにするのを避ける。

5 事業実施後の整理

(1) 枝条・残材の整理

- ① 枝条・残材は、木質バイオマス資材等への有効利用に努める。
- ② 枝条・残材を伐採現場に残す場合は、出水時に溪流に流れ出したり、雨水を滞水させたりすること等により林地崩壊を誘発することがないように、溪流沿い、集材路、土場、林道等の道路脇に積み上げない。また、林地の表土保護のために枝条の敷設による整理を行う等により、枝条・残材を置く場所を分散させ、杭を打つ等の対策を講じる。

(2) 集材路・土場の整理

- ① 集材路・土場は、原則として植栽等により植生の回復を促すこととし、必要に応じて作設時に剥ぎ取った表土の埋戻し等を行う。また、路面水の流下状況等を踏まえ、溝切り等の排水処置を行う。
- ② 伐採・搬出に使用した資材・燃料等の確実な整理・撤去を行う。
- ③ 全ての作業が終了し、伐採現場を引き上げる前に、集材路・土場の枝条・残材等の整理の状況を森林官等に報告し、確認を受ける。

6 その他

- ① 集材路・土場の作設に当たっては、森林法（昭和26年法律第249号）その他の関係法令に基づく各種手続（許可、届出等）を確実に行う。なお、作業箇所が保安林である場合にあつては、同法に基づく保安林における作業許可に係る手続を行わなければならないこと、保安林以外の森林にあつては、集材路の幅員、総延長、土場の面積により、同法の林地開発許可に係る手続の対象となり得ることに留意する。
- ② 労働安全衛生法（昭和47年法律第57号）その他の労働関係法令を遵守し、労働災害の防止、労働環境の改善に取り組む。

地形傾斜・作業システムに対応する路網整備水準の目安

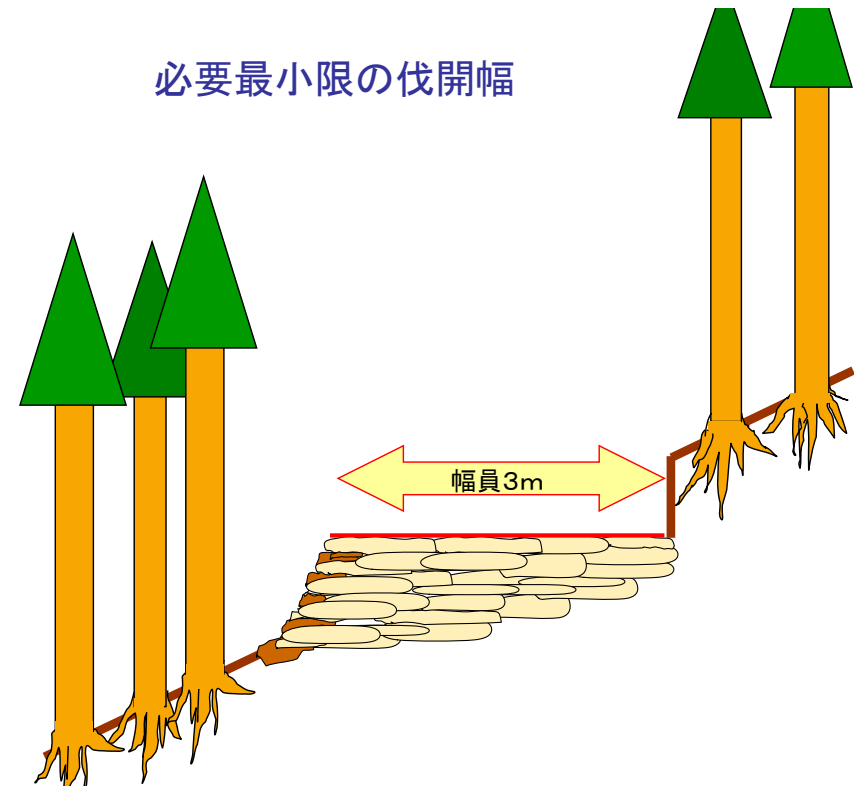
(単位：m/ha)

区分	作業システム	基幹路網			細部路網	路網密度
		林道	林業専用道	小計	森林作業道	
緩傾斜地 (0～15°)	車両系	15～20	20～30	35～50	65～200	100～250
中傾斜地 (15～30°)	車両系	15～20	10～20	25～40	50～160	75～200
	架線系				0～35	25～75
急傾斜地 (30～35°)	車両系	15～20	0～5	15～25	45～125	60～150
	架線系				0～25	15～50
急峻地 (35°～)	架線系	5～15	—	5～15	—	5～15

(参考)

保 残 木 標 準 断 面 図

切土のり面及び盛土側も、立木を出来る限り残すよう
必要最小限の伐開幅とする



- 幅員は3mまでとする。ただし、林業機械等を用いた作業の安全性、作業性の確保の観点から、当該作業を行う区間に限って、0.5m程度の余裕幅を付加することができる。

伐採及び搬出に係るチェックリスト

年 月 日

伐採する者： _____

森林の所在場所： _____

チェック項目	確認
<p>(1) 伐採の方法及び区域の確認</p> <p>①林地や生物多様性の保全に配慮した伐採を行う。</p> <p>②伐採する区域の事前確認を行う。</p> <p>③林地や生物多様性の保全に配慮し、あらかじめ示された保護樹帯や保残木を保全する。</p>	<input type="checkbox"/>
<p>(2) 林地保全に配慮した集材路・土場の配置・作設</p> <p>①集材路・土場の作設は必要最小限にする。</p> <p>②地形等の条件に応じて、路網と架線を適切に選定する。</p> <p>③土場の作設では法面を丸太組みで支える等の崩壊防止対策等を講じる。</p> <p>④現場の状況に応じて、集材路・土場の配置に係る計画の変更を行う。</p> <p>⑤集材路の線形は、極力等高線に合わせる。</p> <p>⑥ヘアピンカーブは地盤の安定した箇所に設置する。</p> <p>⑦集材路・土場は溪流から距離をおいて配置する。</p> <p>⑧集材路は、沢筋を横断する箇所が少なくなるよう配置する。</p> <p>⑨伐採現場の土質が粘性土の場合は、集材路・土場の作設を避ける。やむを得ず作設する場合は、土砂が溪流に流出しない工夫をする。</p> <p>⑩伐採区域のみで集材路の適切な配置が困難な場合には、隣接地を経由することとし、森林官等と協議等を行う。</p>	<input type="checkbox"/>
<p>(3) 人家、道路、取水口周辺等での配慮</p> <p>①集材路・土場の作設時には保全対象の上方に丸太柵工等を設置する。特に、人家、道路等の重要な保全対象が下方にある場合には、その直上では集材路・土場を作設しない。</p> <p>②水道の取水口の周辺では集材路・土場を作設しない。</p>	<input type="checkbox"/>
<p>(4) 生物多様性と景観への配慮</p> <p>①希少な野生生物の生息・生育を知った場合には、森林官等と協議のうえ、線形及び作業の時期の変更等の対策を講じる。</p> <p>②集落、道路等からの景観に配慮した集材路・土場の配置とする。</p>	<input type="checkbox"/>

チェック項目	確認
<p>(5) 切土・盛土</p> <p>①集材路の幅及び土場の広さは必要最小限にする。</p> <p>②切土高を低く抑える。盛土はしっかり絞め固め、必要な場合には、丸太組み工等を活用する。</p> <p>③残土が発生した場合には、森林官等と協議のうえ、溪流沿いを避け、地盤が安定した箇所に置き、必要に応じて、丸太組み工等の対策を講じる。</p>	<input type="checkbox"/>
<p>(6) 路面の保護と排水の処理</p> <p>①雨水による路面の洗堀・崩壊を避けるための対策を講じる。</p> <p>②路面の排水は、浸食されにくい箇所できまめに行う。崩れやすい盛土部分の崩壊等を避けるための対策を講じる。</p>	<input type="checkbox"/>
<p>(7) 溪流横断箇所の処理</p> <p>①溪流横断箇所においては、流水が路面等にあふれ出ないように施行する。暗渠を用いる場合は、詰まりが生じないような対策を講じる。洗い越しとする場合は、横断箇所で集材路の路面を一段下げる。</p> <p>②洗い越しは、大きめの石材を路面に設置するなどにより安定させ、必要に応じて撤去する。</p>	<input type="checkbox"/>
<p>(8) 作業実行上の配慮</p> <p>①集材路・土場は、土砂の流出を防止するため、必要に応じ路面に枝条を敷設する等の措置を講じる。</p> <p>②降雨等により路盤が多量の水分を帯びている状態では通行しない。通行する場合には、丸太等の敷設などにより、路面のわだち掘れ等を防止する対策を講じる。</p> <p>③伐採現場が人家、道路等の上方に位置する場合には、伐倒木、丸太等の落下防止に必要な対策を講じる。</p> <p>④伐採後の植栽作業を想定して枝条等を整理する。</p> <p>⑤枝条等が溪流に流出しないように対策を講じる。</p> <p>⑥天然更新を予定している区域では、枝条等が天然更新の妨げとならないように留意する。</p>	<input type="checkbox"/>
<p>(9) 事業実施後の整理</p> <p>①枝条等を伐採現場に残す場合は、溪流に流れ出たり、林地崩壊を誘発することがないように、適切な場所に整理する。</p> <p>②集材路・土場は、溝切り等の排水処置を行う。</p> <p>③伐採現場を引き上げる前に、集材路・土場の枝条等の整理の状況について、森林官等から手直し等の指示があった場合は、必要な措置を講じる。</p>	<input type="checkbox"/>

公売物件一覧表(立木)

下北森林管理署

入札番号	森林事務所	物件所在地	契約関係	伐採方法	面積(ha)	林齢	主要樹種	本数(本)	幹材積						延納	搬出期間
									スギ (一般材)	カラマツ (一般材)	ヒバ (一般材)	その他N	L	合計		
1	田名部	釜臥山国有林 25と1	分造	皆伐	3.23	46	スギ	2,121	376.18	50.20	-	288.70	102.71	817.79	認めません	36ヶ月
2	脇野沢	源藤城国有林 974ほ1	分造	皆伐	3.13	47	スギ	4,875	1,842.08	-	19.76	56.08	81.50	1,999.42		
		源藤城国有林 974ほ2(A伐区)			4.64	48	スギ	4,519	3,009.42	-	0.85	19.75	18.43	3,048.45		
		小計			7.77			9,394	4,851.50	-	20.61	75.83	99.93	5,047.87		
3	脇野沢	源藤城国有林 976㍿(A伐区)	分造	皆伐	4.38	55	スギ	7,768	746.73	-	-	64.11	374.27	1,185.11		
4	脇野沢	源藤城国有林 967は	分造	間伐	3.08	37	スギ	1,764	170.15	-	-	25.15	96.90	292.20		
5	佐井	湯ノ川越国有林 2268と2	分造	皆伐	1.59	40	キリ	4,100	21.95	0.29	-	1.40	139.73	163.37		
6	佐井	湯ノ川越国有林 2286い1	分造	皆伐	1.15	56	スギ	1,269	654.63	-	121.43	15.00	2.33	793.39		
7	佐井	湯ノ川越国有林 2287い2	分造	皆伐	1.36	70	スギ	1,042	1,963.51	-	-	-	-	1,963.51		
		合計			22.56			27,458	8,784.65	50.49	142.04	470.19	815.87	10,263.24		

公売物件明細書(立木)

物件番号	1	主要樹種 径級別本数及び総材積、平均径級														
森林事務所	田名部	樹種	種類	一般材 低質材 別	径級別本数								計		平均	
物件所在地	釜臥山 25と1				10cm	12cm	22cm	32cm	42cm	52cm	62cm	本数 (本)	材積	径級 (cm)	樹高 (m)	
					以下	~20cm	~30cm	~40cm	~50cm	~60cm	以上					
調査方法	毎木調査	特約条項及び特記事項	スギ	生立木	一般材	0	19	70	151	82	9	2	333	376.18	36	22
伐採方法	皆伐	1.この物件は、分収林であり、販売代金は国及び契約者の持分割合で払い込んでいただきます。 2. この物件に民地が隣接しているので、作業前に区域を十分確認し、誤伐等が生じないように留意してください。 3. この物件に隣接して分収林が設定されているので、作業前に区域を十分確認し、誤伐等が生じないように留意してください。	スギ(外)	生立木	低質材	3	0	0	0	0	0	0	3	0.09	8	6
面積(ha)	3.23		アカマツ	生立木	一般材	0	29	171	77	12	0	0	289	175.02	28	19
林齢(年)	46		カラマツ	生立木	一般材	0	6	25	22	8	0	0	61	50.20	32	20
搬出期間(ヶ月)	36ヶ月		ヒバNA	生立木	低質材	0	2	0	2	0	0	0	4	1.92	26	13
契約関係	分収造林		カラマツNA	生立木	低質材	0	18	14	6	0	0	0	38	11.69	22	13
			アカマツNA	生立木	低質材	2	163	127	18	2	0	0	312	99.98	22	15
			N計			5	237	407	276	104	9	2	1,040	715.08		
法令制限、その他留意事項																
保安林	水涵保		クリ	生立木	一般材	0	0	14	3	0	0	0	17	8.45	28	18
自然公園	-		ホオノキ	生立木	一般材	0	0	4	0	0	0	0	4	1.68	24	19
砂防指定	-	その他広	生立木	一般材	0	0	0	2	0	0	0	2	1.81	34	23	
車両制限	10t	その他広(外)	生立木	低質材	528	462	63	4	0	1	0	1,058	90.77	12	10	
		L計			528	462	81	9	0	1	0	1,081	102.71			
		合計				533	699	488	285	104	10	2	2,121	817.79		

- 1) 樹種の括弧書きは青森県、岩手県、宮城県に適用
 2) 本様式は必要に応じて項目の追加、削除、修正を行っても差し支えない

公売物件明細書(立木)

物件番号	2	主要樹種 径級別本数及び総材積、平均径級															
森林事務所	脇野沢	物件所在地	源藤城 974ほ1 974ほ2(A伐区)	樹種	種類	一般材 低質材 別	径級別本数						計		平均		
							10cm	12cm	22cm	32cm	42cm	52cm	62cm	本数 (本)	材積	径級 (cm)	樹高 (m)
							以下	～20cm	～30cm	～40cm	～50cm	～60cm	以上				
調査方法	毎木調査	特約条項及び特記事項		スギ	生立木	一般材	0	1,939	3,223	1,810	314	22	1	7,309	4,851.50	26	21
伐採方法	皆伐			1. この物件は分収林であり、販売代金は国及び契約者の持分割合で払い込んでいただきます。 2. この物件に民地が隣接しているため、作業前に区域を十分確認し、誤伐等が生じないように留意してください。	スギ(外)	生立木	低質材	286	0	0	0	0	0	0	286	8.98	8
面積(ha)	7.77	アカマツ	生立木		一般材	0	0	5	0	0	0	0	5	2.07	24	17	
林齢(年)	47～48	ヒバ	生立木		一般材	0	25	37	3	0	0	0	65	20.61	22	16	
搬出期間(ヶ月)	36ヶ月	ヒバNA	生立木		低質材	425	286	47	0	1	0	0	759	60.58	12	8	
契約関係	分収造林	アカマツNA	生立木		低質材	0	6	7	0	0	0	0	13	4.20	22	16	
		N計				711	2,256	3,319	1,813	315	22	1	8,437	4,947.94			
法令制限、その他留意事項		クリ	生立木		一般材	0	0	0	1	0	0	0	1	0.66	32	19	
保安林	-	ミズナラ	生立木		一般材	0	0	1	0	0	0	0	1	0.34	24	17	
自然公園	-	オニグルミ	生立木		一般材	0	0	0	1	0	0	0	1	0.77	32	22	
砂防指定	-	サワグルミ	生立木		一般材	0	0	12	15	1	0	0	28	23.95	32	25	
車両制限	10t	ホオノキ	生立木	一般材	0	0	1	0	0	0	0	1	0.34	24	17		
		その他広	生立木	一般材	0	0	0	1	0	0	0	1	0.73	22	32		
		その他広(外)	生立木	低質材	544	317	55	6	2	0	0	924	73.14	12	9		
		L計			544	317	69	24	3	0	0	957	99.93				
		合計				1,255	2,573	3,388	1,837	318	22	1	9,394	5,047.87			

- 1) 樹種の括弧書きは青森県、岩手県、宮城県に適用
 2) 本様式は必要に応じて項目の追加、削除、修正を行っても差し支えない

公売物件明細書(立木)

物件番号	3	主要樹種 径級別本数及び総材積、平均径級																
森林事務所	脇野沢	樹種	種類	一般材 低質材 別	径級別本数							計		平均				
物件所在地	源藤城 976㍿(A伐区)				10cm	12cm	22cm	32cm	42cm	52cm	62cm	本数 (本)	材積	径級 (cm)	樹高 (m)			
					以下	～20cm	～30cm	～40cm	～50cm	～60cm	以上							
調査方法	標準地調査	特約条項及び特記事項		スギ	生立木	一般材	0	973	823	219	28	0	0	2,043	746.73	22	15	
伐採方法	皆伐	1.この物件は、分収林であり、販売代金は国及び契約者の持分割合で払い込んでいただきます。 2. この物件に隣接して分収林が設定されているので、作業前に区域を十分確認し、誤伐等が生じないよう留意してください。		スギ(外)	生立木	低質材	301	0	0	0	0	0	0	301	6.42	8	5	
面積(ha)	4.38			アカマツ	生立木	一般材	0	0	70	0	0	0	0	0	70	26.52	24	16
林齢(年)	55			ヒバNA	生立木	低質材	422	237	0	0	0	0	0	0	659	29.31	10	6
搬出期間(ヶ月)	36ヶ月			アカマツNA	生立木	低質材	0	23	0	0	0	0	0	0	23	1.86	14	10
契約関係	分収造林			N計			723	1,233	893	219	28	0	0	3,096	810.84			
法令制限、その他留意事項				ホオノキ	生立木	一般材	0	0	54	0	0	0	0	0	54	25.1	26	18
保安林	-			その他広(外)	生立木	低質材	2,113	2,301	190	14	0	0	0	0	4,618	349.17	12	9
自然公園	-			L計			2,113	2,301	244	14	0	0	0	4,672	374.27			
砂防指定	-																	
車両制限	10t																	
		合計			2,836	3,534	1,137	233	28	0	0	7,768	1,185.11					

- 1) 樹種の括弧書きは青森県、岩手県、宮城県に適用
- 2) 本様式は必要に応じて項目の追加、削除、修正を行っても差し支えない

公売物件明細書(立木)

物件番号	4	主要樹種 径級別本数及び総材積、平均径級														
森林事務所	脇野沢	樹種	種類	一般材 低質材 別	径級別本数							計		平均		
物件所在地	源藤城 967は				10cm	12cm	22cm	32cm	42cm	52cm	62cm	本数 (本)	材積	径級 (cm)	樹高 (m)	
					以下	~20cm	~30cm	~40cm	~50cm	~60cm	以上					
調査方法	標準地調査	特約条項及び特記事項	スギ	生立木	一般材	0	616	210	0	0	0	0	826	170.15	18	13
伐採方法	経常間伐	1.この物件は、分収林であり、販売代金は国及び契約者の持分割合で払い込んでいただきます。 2. この物件に民地が隣接しているので、作業前に区域を十分確認し、誤伐等が生じないように留意してください。	スギ(外)	生立木	低質材	14	70	0	0	0	0	84	5.32	12	9	
面積(ha)	3.08		アカマツNA	生立木	低質材	0	28	42	0	0	0	0	70	19.83	20	14
林齢(年)	37		N計			14	714	252	0	0	0	0	980	195.30		
搬出期間(ヶ月)	36ヶ月															
契約関係	分収造林		その他広	生立木	一般材	56	616	112	0	0	0	0	784	96.90	16	12
			L計			56	616	112	0	0	0	0	784	96.90		
法令制限、その他留意事項																
保安林	-															
自然公園	-															
砂防指定	-															
車両制限	10t															
		合計				70	1,330	364	0	0	0	0	1,764	292.20		

1) 樹種の括弧書きは青森県、岩手県、宮城県に適用

2) 本様式は必要に応じて項目の追加、削除、修正を行っても差し支えない

公売物件明細書(立木)

物件番号	6	主要樹種 径級別本数及び総材積、平均径級	樹種	種類	一般材 低質材 別	径級別本数							計		平均		
						10cm 以下	12cm ～20cm	22cm ～30cm	32cm ～40cm	42cm ～50cm	52cm ～60cm	62cm 以上	本数 (本)	材積	径級 (cm)	樹高 (m)	
物件所在地	湯ノ川越 2286い1		スギ	生立木	一般材	0	44	212	327	87	10	1	681	654.63	34	21	
調査方法	毎木調査	1. この物件は分収林であり、販売代金は国及び契約者の持分割合で払い込んでいただきます。 2. この物件に民地が隣接しているので、作業前に区域を十分確認し、誤伐等が生じないように留意してください。	スギ(外)	生立木	低質材	6	0	0	0	0	0	0	6	0.12	6	6	
伐採方法	皆伐		トドマツ	生立木	一般材	0	2	0	0	0	0	0	2	0.40	16	16	
面積(ha)	1.15		ヒバ	生立木	一般材	0	117	155	57	1	0	0	330	121.43	24	14	
林齢(年)	56		ヒバNA	生立木	低質材	120	59	17	1	0	0	0	197	14.44	12	7	
搬出期間(ヶ月)	36ヶ月		マツ類NA	生立木	低質材	2	0	0	0	0	0	0	2	0.04	6	4	
契約関係	分収造林		N計			128	222	384	385	88	10	1	1,218	791.06			
法令制限、その他留意事項																	
保安林	-		ホオノキ	生立木	一般材	0	0	1	0	0	0	0	1	0.47	26	20	
自然公園	定特3		センノキ	生立木	一般材	0	0	0	1	0	0	0	1	0.73	36	17	
砂防指定	-		その他広(外)	生立木	低質材	43	6	0	0	0	0	0	49	1.13	8	7	
車両制限	10t		L計			43	6	1	1	0	0	0	51	2.33			
			合計				171	228	385	386	88	10	1	1,269	793.39		

1) 樹種の括弧書きは青森県、岩手県、宮城県に適用

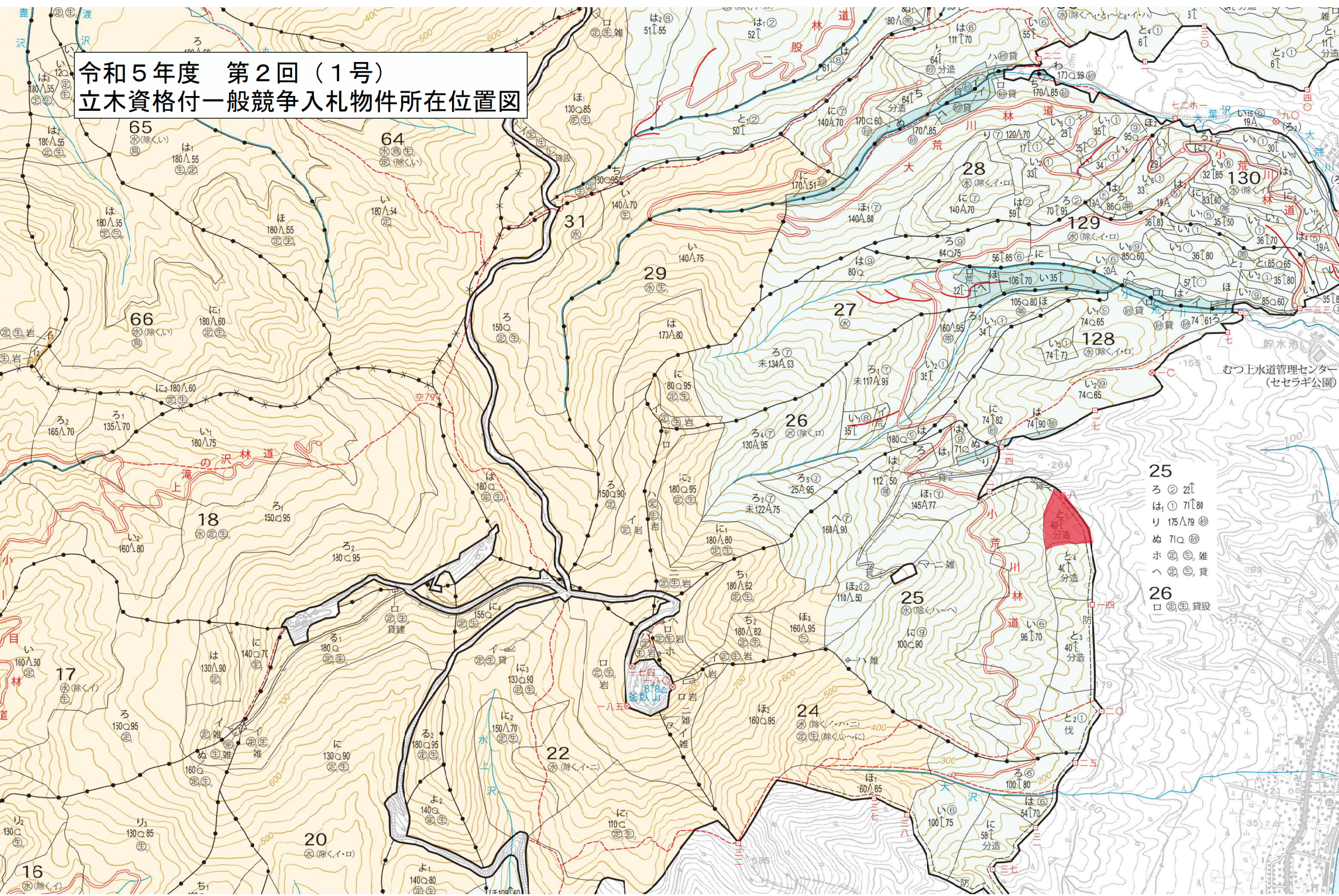
2) 本様式は必要に応じて項目の追加、削除、修正を行っても差し支えない

公売物件明細書(立木)

物件番号	7	森林事務所	佐井	主要樹種 径級別本数及び総材積、平均径級															
				物件所在地	湯ノ川越 2287い2	樹種	種類	一般材 低質材 別	径級別本数						計		平均		
									10cm 以下	12cm ~20cm	22cm ~30cm	32cm ~40cm	42cm ~50cm	52cm ~60cm	62cm 以上	本数 (本)	材積	径級 (cm)	樹高 (m)
調査方法	標準地調査	特約条項及び特記事項		スギ	生立木	一般材	0	0	69	278	574	104	17	1,042	1,963.51	42	27		
伐採方法	皆伐	1. この物件は分収林であり、販売代金は国及び契約者の持分割合で払い込んでいただきます。		N計			0	0	69	278	574	104	17	1,042	1,963.51				
面積(ha)	1.36																		
林齢(年)	70																		
搬出期間(ヶ月)	36ヶ月																		
契約関係	分収造林																		
法令制限、その他留意事項																			
保安林	-																		
自然公園	-																		
砂防指定	-																		
車両制限	10t			合計			0	0	69	278	574	104	17	1,042	1,963.51				

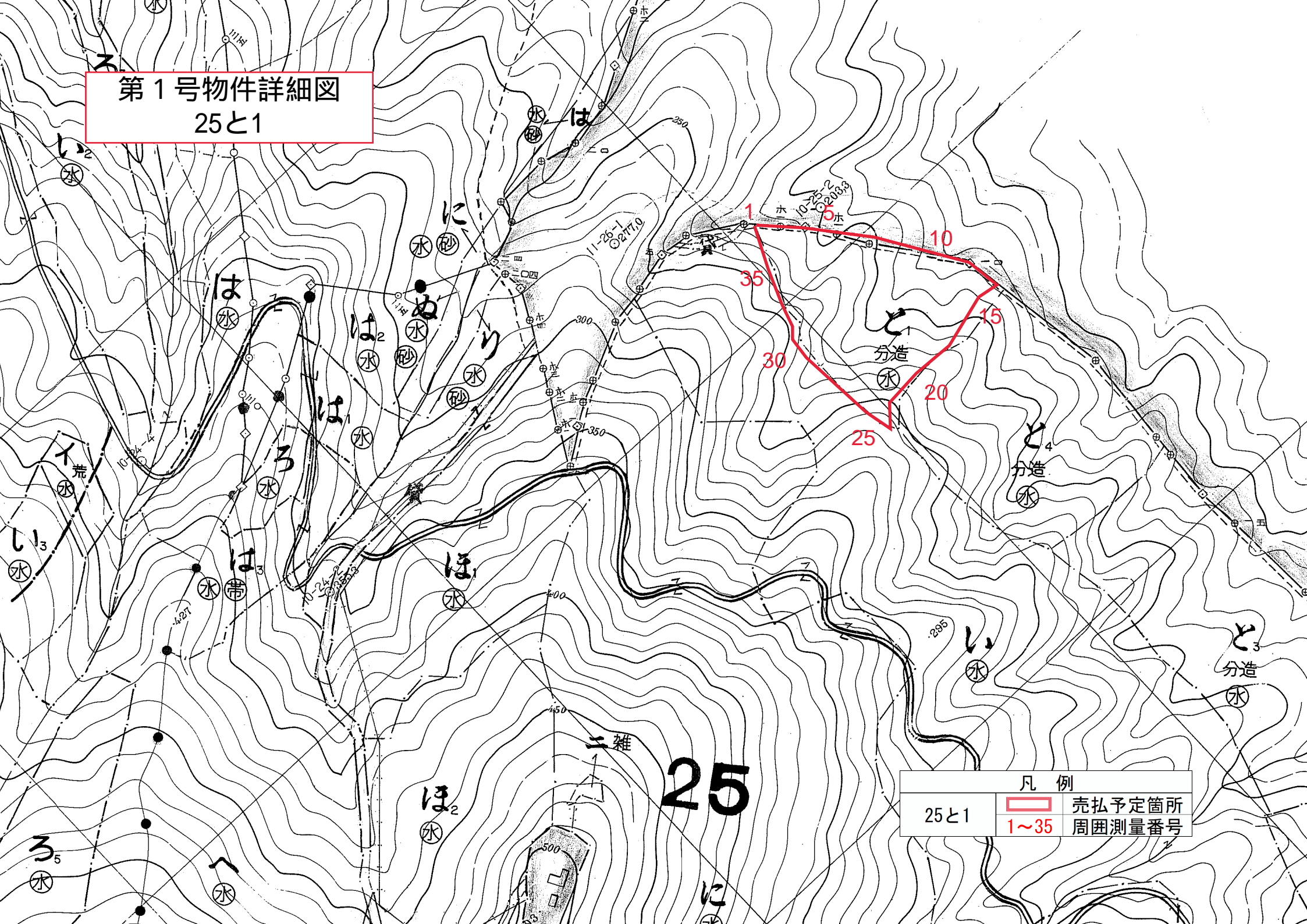
1) 樹種の括弧書きは青森県、岩手県、宮城県に適用
 2) 本様式は必要に応じて項目の追加、削除、修正を行っても差し支えない

令和5年度 第2回(1号) 立木資格付一般競争入札物件所在位置図



- 25
ろ② 22↑
は① 71↑80
り 40↑分造
め 71○
ホ⑤, 雑⑤, へ⑤, 貴⑤
- 26
口⑤, 貴⑤, 貸⑤

第1号物件詳細図
25と1



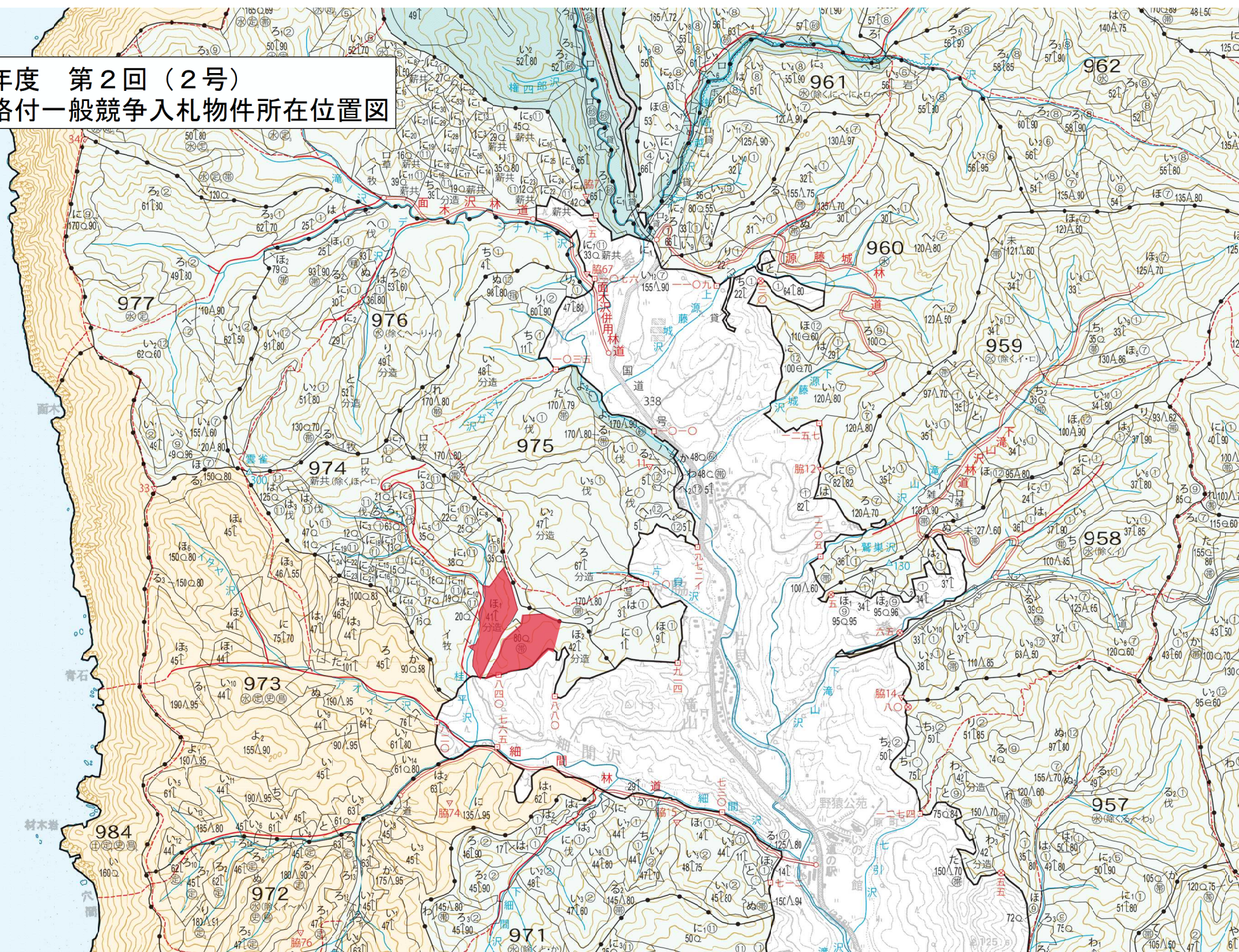
凡例	
25と1	 売払予定箇所
	 1~35 周囲測量番号

令和5年度 第2回(2号)
立木資格付一般競争入札物件所在位置図

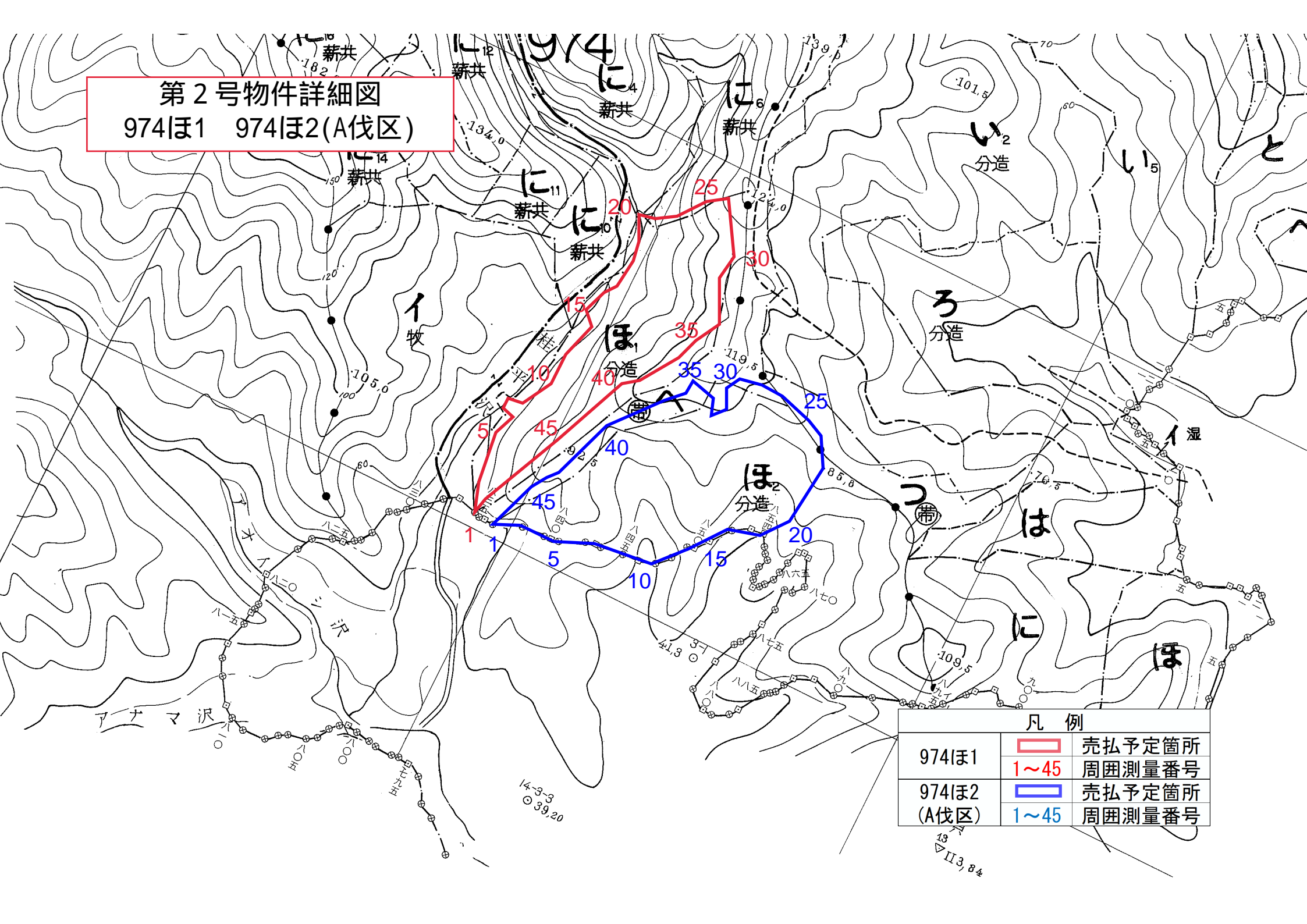
館

海

峡

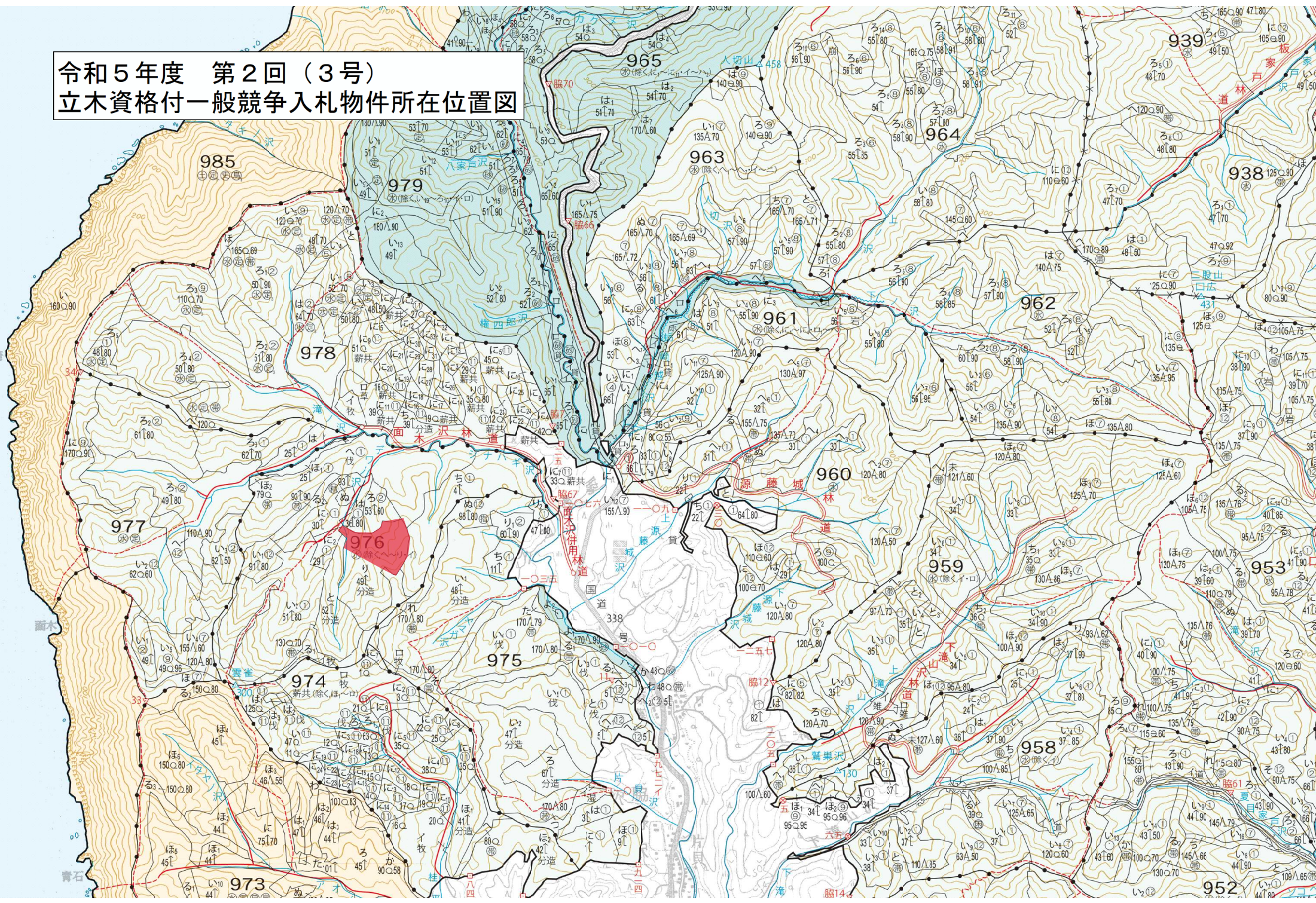


第2号物件詳細図
 974ほ1 974ほ2(A伐区)

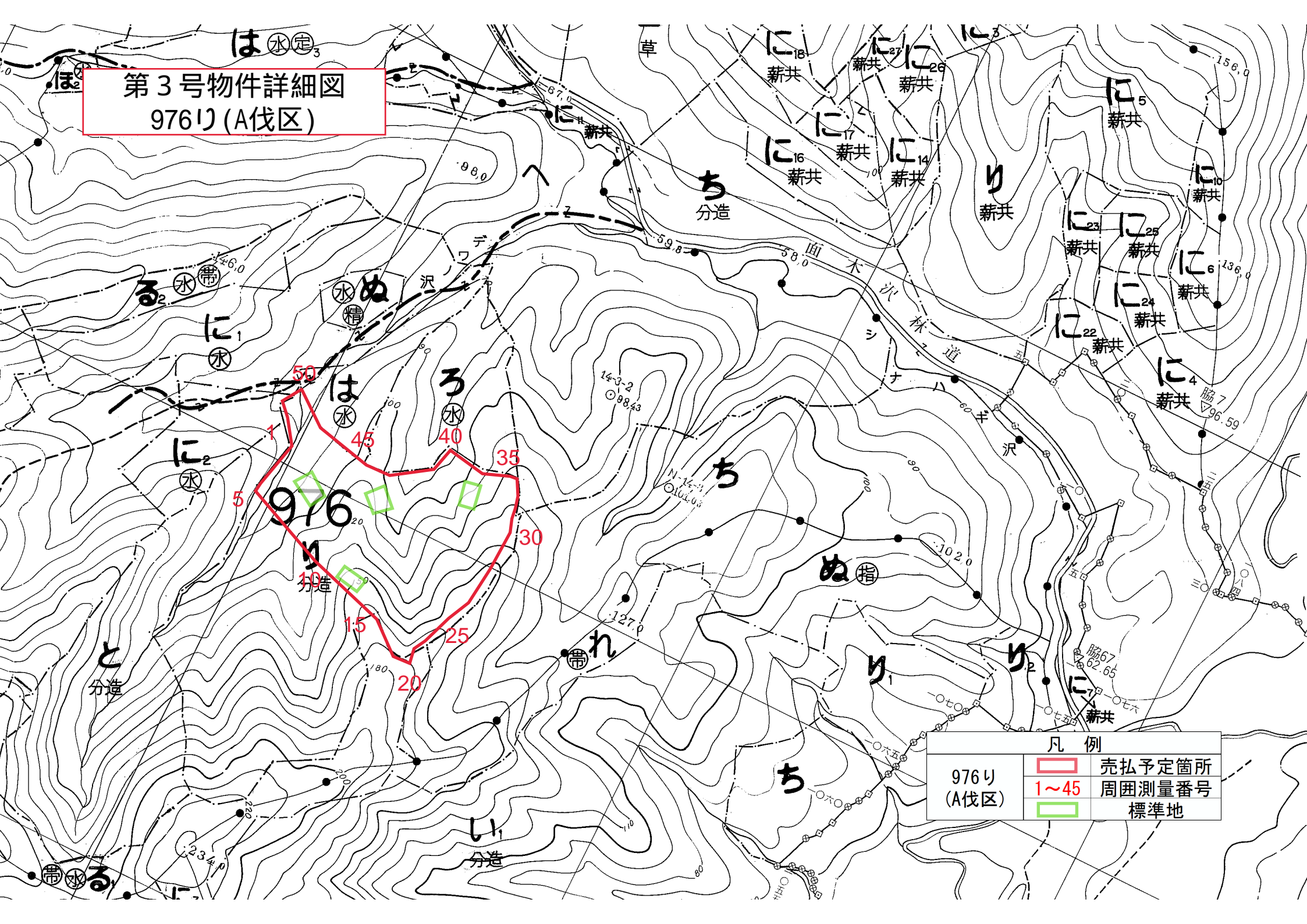


凡例		
974ほ1	▭	売払予定箇所
	1~45	周囲測量番号
974ほ2 (A伐区)	▭	売払予定箇所
	1~45	周囲測量番号

令和5年度 第2回(3号)
立木資格付一般競争入札物件所在位置図

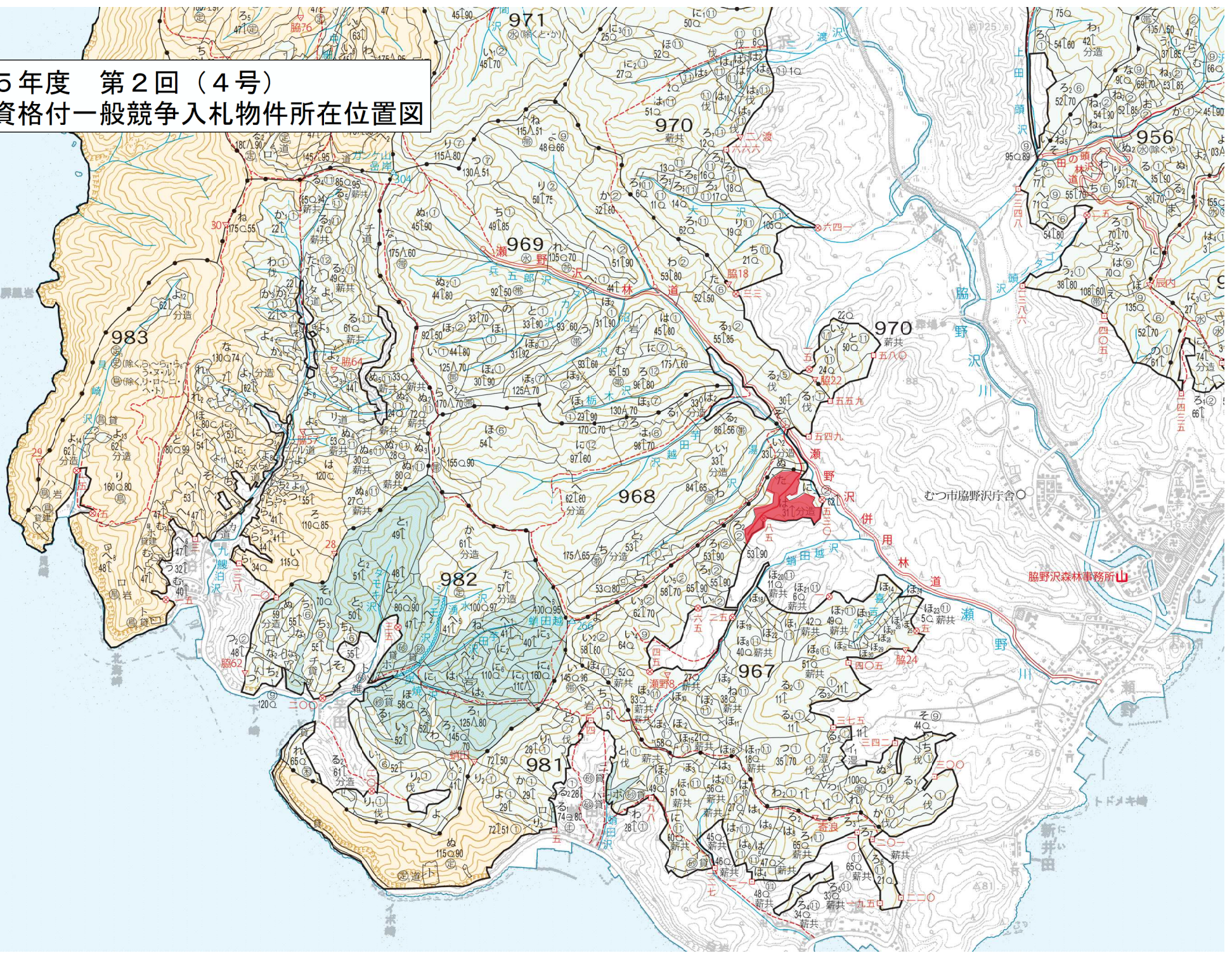


第3号物件詳細図
976㍿(A伐区)



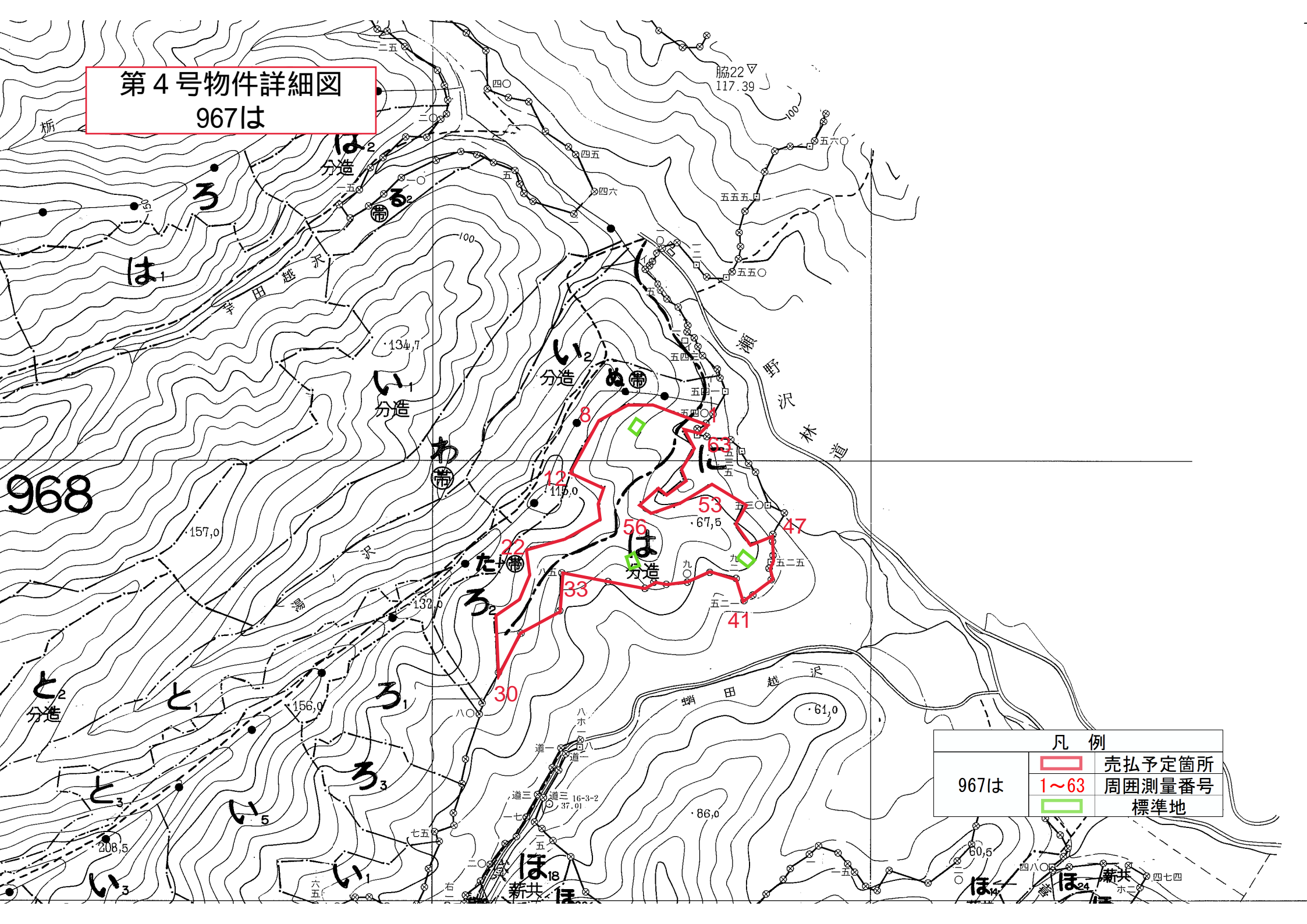
凡例		
976㍿ (A伐区)		売払予定箇所
	1~45	周囲測量番号
		標準地

令和5年度 第2回(4号)
立木資格付一般競争入札物件所在位置図






第4号物件詳細図

967は



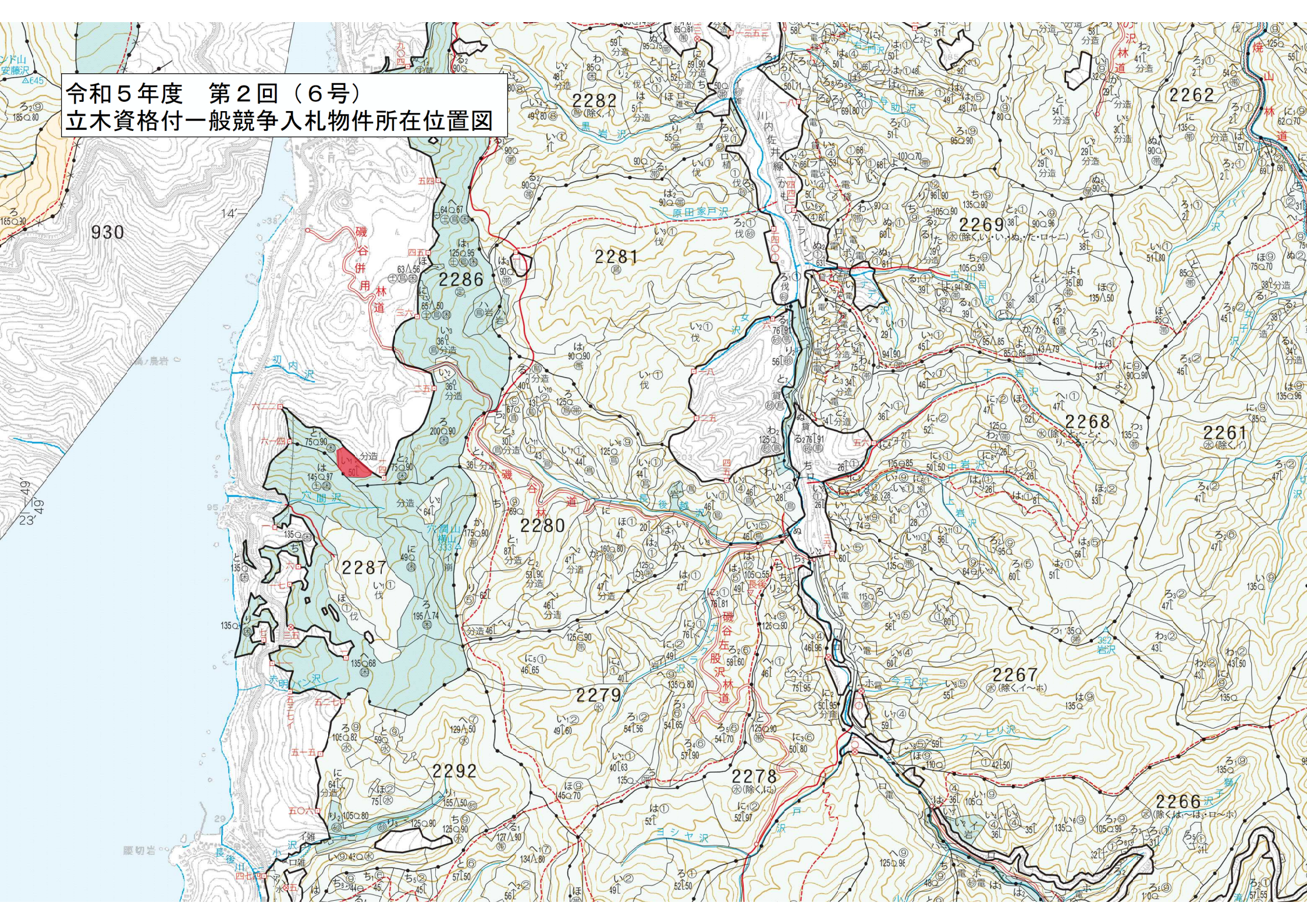
凡例

967は		売払予定箇所
		1~63 周囲測量番号
		標準地

令和5年度 第2回(5号)
立木資格付一般競争入札物件所在位置図



令和5年度 第2回(6号)
立木資格付一般競争入札物件所在位置図



930

14'

23
49

2282

2281

2286

2280

2287

2279

2292

2278

2269

2268

2261

2267

2266

2262

令和5年度 第2回(7号)
立木資格付一般競争入札物件所在位置図

